

平成19年8月26日

「ふるさとのジャズ交流祭 in 斑尾」

平成19年8月3日～5日 長野県斑尾高原

報告書

ふるさとのジャズ交流祭実行委員会

実行委員長 新山 敏

事務局長 豊村 泰彦

夏の真っ盛り、関東・甲信越のジャズファンが涼しい標高 1,000 メートルの高原に集まり、合宿、ステージ演奏、ライブ、音楽晚餐会などで交流を深める「ふるさとのジャズ交流祭 in 斑尾」が8月3日（金）から 5日（日）の3日間、長野県斑尾高原で開催されました。

このイベントは、斑尾高原でつい4年前まで開かれていたジャズフェスティバルを参加と交流をテーマとする祭りとして復活させ、地域活性化に役立てていこうと地元のペンションオーナーと東京のNPO関係者がライブハウスオーナー、ステージ専門家、アマチュアミュージシャンなどと共に、ボランティアリズムと手作りをベースに作り上げたものです。

前日に行われた前夜祭では、参加バンド、観客、地元関係者、招待者など合わせて 150 人が地元斑尾ペンションの奥さん達の手作りの料理を味わいながら交流を深めました。会場では、東京のビッグバンドのライブ演奏が披露され、最後は「聖者の行進」の大ジャムセッションで盛り上がりました。

4日と5日の2日間にわたって特設野外ステージ（斑尾高原スキー場内にあるレストラン チロルの一部）で開かれた演奏会には首都圏と長野県から18バンド（約 180 人）が参加し、熱い演奏を繰り広げました。参加者は2日間で 600 人を越え、第1回目のイベントとしてはまずまずの集客状況となりました。

また、野外ステージと平行して、「まだらお山の家」横の芝生広場で楽器メーカー・ヤマハの協力による小・中学生とその親を対象とするジャズ教室が開かれ、2日間で 40人以上の親子がジャズの面白さ、演奏することの楽しさを学びました。このほか、ペンション前でのライブや二十数台のサイドカー付きオートバイに乗ったミュージシャンらがジャズを演奏しながら街を縦断するアトラクションも行われ、斑尾高原の街は3日間、ジャズ一色に染まりました。

参加した人々からは、聖地 斑尾にジャズが戻ってきたことを喜ぶ多くの声が寄せられ、実行委員としても「ジャズ」を斑尾高原の地域資源として、まちづくりに活かしていくことに確信を持ちました。来年はさらに集客力を高め、音楽交流のメッカとなるよう、運営組織の強化・充実に努力していく所存であります。関係者の皆様におかれましても、いっそうのご支援をお願い申し上げます。

最後に、交流祭開催に向けて地元で支援してくださった会場オーナー、ペンション・ホテルの関係者の方々、協賛各社、協力の地元観光協会、後援の長野県、飯山市、妙高市、中野市他関係者の方々、献身的に働いたステージ設営者・実行委員会の方々には心より感謝を申し上げます。

有難うございました。

ふるさとのジャズ交流祭 in 斑尾
フォト・ライブラリー

前夜祭 (まだらお山の家)



流祭 (特設野外ステージ)



その他



親子ジャズ教室



ペンションの練習風景



ペンション前でライブ